

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-005890
 (43)Date of publication of application : 12.01.2001

(51)Int.Cl.

G06F 19/00

(21)Application number : 2000-071608

(71)Applicant : GOTENBA SOFT KAIHATSUKK

(22)Date of filing : 17.06.1999

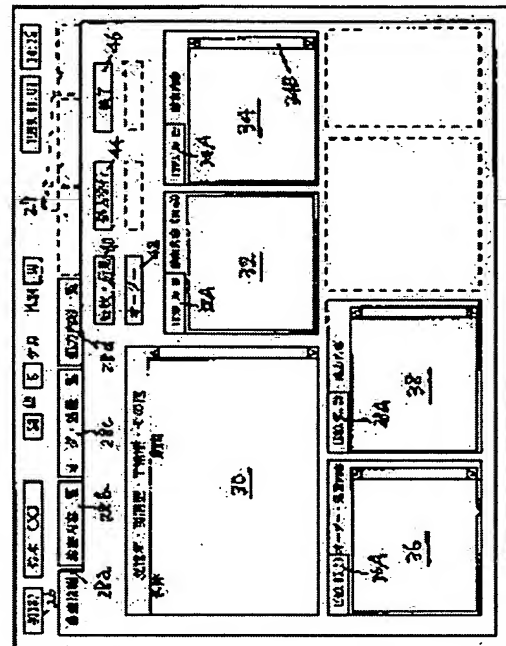
(72)Inventor : SAITO SHOJI

(54) ELECTRONIC MEDICAL MANAGEMENT SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily and speedily refer to various consultation data in the past concerning a specified patient.

SOLUTION: This system is provided with plural pictures capable of respectively practically displaying data for each subject such as consultation information, consultation contents, order/treatment and prescription contents within one picture concerning that patient. Namely, the system is provided with single picture display for the latest data in the past, single picture display for series of consultation contents in the past, single picture display for series of order/treatment in the past or single picture display for series of prescription contents in the past. The display of these plural pictures is switched by clicking tabs 28a, 28b, 28c and 28d with a mouse.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.10.2000
 [Date of sending the examiner's decision of rejection] 24.09.2002
 [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
 [Date of final disposal for application]
 [Patent number]
 [Date of registration]
 [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-5890
(P2001-5890A)

(43) 公開日 平成13年1月12日 (2001.1.12)

(51) Int.Cl.⁷
G 0 6 F 19/00

識別記号

F I
G 0 6 F 15/42

データベース (参考)

H

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 31 頁)

(21) 出願番号 特願2000-71608 (P2000-71608)
(62) 分割の表示 特願平11-170765の分割
(22) 出願日 平成11年6月17日 (1999.6.17)

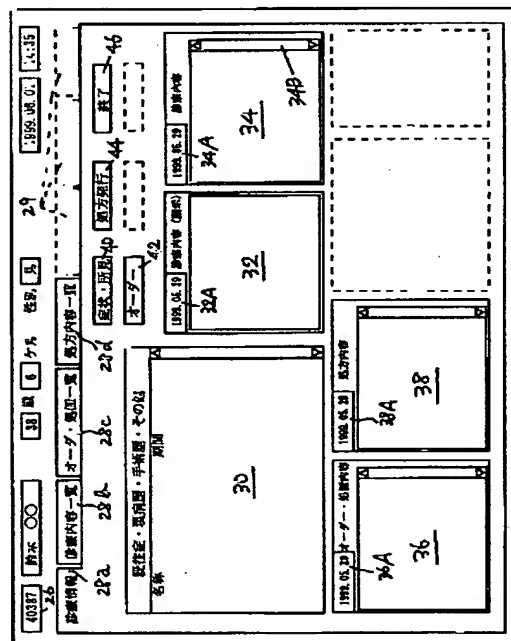
(71) 出願人 39903/416
有限会社 御殿場ソフト開発
静岡県御殿場市新橋670-15
(72) 発明者 ▲齋▼藤 彰治
静岡県御殿場市新橋670-15
(74) 代理人 100088731
弁理士 三井 孝夫

(54) 【発明の名称】 電子式医療管理システム

(57) 【要約】

【課題】本発明は電子式医療管理システムに関し、特定の患者についての過去のさまざまな診療データの参照を容易かつ迅速に行ないうるようにすることを目的とする。

【解決手段】その患者に関し診察情報、診療内容、オーダー・処置、処方内容などの特定主題毎のデータをそれぞれ実質的に1画面にて表示しうる複数の画面を備える。即ち、最新の過去データの1画面表示や、過去の一連の診療内容の1画面表示や、過去の一連のオーダー・処置の1画面表示や、過去の一連の処方内容の1画面表示などが設けられる。これら複数の画面間での表示の切替はタブ28a, 28b, 28c, 28dをマウスクリックすることにより行なわれる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 患者毎に診察やオーダーや処方等の医療処置についてデータを蓄積しておくデータ蓄積手段と、患者を特定するための情報を入力する入力手段と、前記入力手段によって患者を特定する情報が入力されたときその患者についてデータ蓄積手段に蓄積されているデータを表示する表示手段とを備え、前記表示手段は、その患者に関しそれぞれの特定主題についてのデータをそれぞれ実質的に1画面にて表示しうる複数の画面と、これら複数の画面間での表示の切替を行うポインタ手段とを備えたことを特徴とする電子式医療管理システム。

【請求項2】 請求項1に記載の発明において、各々の1画面にはその特定主題に関する複数のデータがそれを採取した日付と共に表示されていることを特徴とする電子式医療管理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、病院において医師や看護婦による医療行為の管理、さらには事務スタッフによる事務的な管理のためにも使用する使用することができ、従来の紙で書かれたカルテやカードックスの代わりに使用することができる電子式医療管理システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の紙で書かれたカルテの代わりにコンピュータを利用した電子カルテが各種提案されている。従来の電子カルテは単に紙のカルテを電子化したという類のものが普通であった。即ち、従来の電子カルテは紙のカルテの記載方式を踏襲して1日1ページ単位の画面構成であり、そのページの中にその日の全ての診療情報を記載するようになっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の1日1ページ単位で構成された電子カルテにおいては、医師の診察時に過去の診療結果を参照するためには、紙のカルテをめくる操作に準じて、画面のページの切替ボタンを押すかスクロールさせるか又は検索メニューに戻って日付指定する操作が必要であった。一方、患者についての処置は診察内容や、オーダー・処置、処方などいろいろあり、これらが日をまたがって配置されているため、その迅速な参照が困難であった。

【0004】この発明は以上の問題点に鑑みてなされたものであり、特定の患者についての過去のさまざまな診療データの参照を容易かつ迅速に行うことができる電子式医療管理システムを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明によれば、患者毎に診察やオーダーや処方等の医療処置についてデータを蓄積しておくデータ蓄積手段と、患者を特定するための情報を入力する入力手段と、前記入力手段によって患

者を特定する情報が入力されたときその患者についてデータ蓄積手段に蓄積されているデータを表示する表示手段とを備え、前記表示手段は、その患者に関しそれぞれの特定主題についてのデータをそれぞれ実質的に1画面にて表示しうる複数の画面と、これら複数の画面間での表示の切替を行うポインタ手段とを備えたことを特徴とする電子式医療管理システムが提供される。

【0006】このシステムによれば、診療情報や診療内容一覧などの異なった特定主題についてそれぞれ実質的に1画面表示とし、これらの画面をマウス及びタブなどより成るポインタ手段により切替えているため、医師はマウスの操作のみでその患者の全診療情報を迅速に参照することができ、迅速かつ的確な診療に寄与させることができる。

【0007】この発明において、各々の1画面にはその特定主題に関する複数のデータをそれを採取した日付と共に表示することができ、これにより各画面間（診療情報間）での診療結果の時間的な推移を医師は即座に把握することができる。

【0008】

【発明の実施の形態】以下この発明の実施の形態の一例として耳鼻咽喉科の医院の電子式医療管理システムに応用した場合について説明する。

【0009】図1はコンピュータシステムの全体構成を概略的に示しており、各コンピュータユニット1a, 1b, . . . は本体及びディスプレイ2とキーボード3とマウス4とを備えており、米国アップルコンピュータ社のMACOS等のグラフィカルインターフェースのオペレーティングシステム(OS)下で稼動するものである。

【0010】コンピュータユニットのうち一つがサーバであり、各データを収容するデータベースとして機能する。他のコンピュータユニットはクライアントであり、クライアントコンピュータは各医師、ナースステーション、事務室、受付等の病院の各部に設けられ、サーバコンピュータと相互に接続されることによりネットワーク化されプログラム及びデータの共用が可能となるように構成されている。コンピュータユニットは各医師の診断机上又はそれに近接して設置されており、画面上のタブやボタンを操作することによりキーボードの操作に慣れない医師であっても紙のカルテを使用することなく、電子的にカルテを容易かつ迅速に作成することができる。また、コンピュータユニットはナースステーションや受付等にも設置され、電子的に作成されたカードックスに基づきナースが適切な処置を行うことができ、また事務員による電子的な受付操作も可能となっている。

【0011】コンピュータネットワークにはプリンタ5、X線画像入力装置6及び図示しないその他の必要な周辺機器が接続されている。

【0012】この発明の電子式医療管理システムの本質

的な部分はコンピュータシステムに格納されたソフトウェアとして構成されるものであり、より具体的には前記オペレーティングシステム下で稼動する米国ACI社の4th Dimension等の所謂データベースソフトに組み込まれたプログラムとして実現されるものである。以下このプログラム実行の結果であるこの発明の電子式医療管理システムの動作又は機能を説明する。

【0013】図2、図3及び図4はこの発明の電子医療管理システムの動作がどのように行われるかを表すフローチャートを後述の詳細説明に関連する部分のみに限定して示したものである。図2においてシステムを起動することによりプログラムの実行が開始され、ステップ10ではメニュー画面（図5参照）の表示がされ、画面上に表示されるボタン（診察ボタン20、カーデックスボタン22、設定ボタン24及びその他のメニュー画面上の図示しないボタン）がマウスでクリックされるのを待機し、ボタンがクリックされない限りはメニュー画面の表示が継続される。

【0014】ステップ12～16はメニュー画面上のいずれかのボタンのクリックの待機ステップを示しており、説明の簡明を図りかつ以下の詳細説明と関連する部分のみに説明を絞る趣旨から診察ボタン、カーデックスボタン、設定ボタンの3つのボタンのみ示しているが、その他のボタン（例えば受付ボタン（このボタンがクリックされると受付処理を行い新規患者の場合にはIDが付与される）や検索ボタン（このボタンがクリックされるとデータベース中に格納されたデータの検索を行うことができる）など）が必要に応じて設けられている。

【0015】ステップ12で診察ボタンがクリックされたか判断されたときは、ステップ18に進み、診察処理が行われる。図3はステップ18で実行される診察処理を以下の説明に関連する部分のみに限定して概略的に表すフローチャートである。診察処理では画面に設けられるどのタブ（図6の28a～28d）がクリックされたかをチェックするステップが実行される。即ち、ステップ18-1では診療情報タブ28aがクリックされたか否か、ステップ18-2では診療内容一覧タブ28bがクリックされたか否か、ステップ18-3ではオーダー・処置一覧タブ28cがクリックされたか否か、ステップ18-4では処方内容一覧タブ28dがクリックされたか否かチェックされる。ステップ18-1で診療情報タブ28aがクリックされたときはステップ18-5で診療情報画面（図6）を表示する処理が行われる。ステップ18-2で診療内容一覧タブ28bがクリックされたときはステップ18-6で診療内容一覧画面（図7）を表示する処理が行われる。ステップ18-3でオーダー・処置一覧タブ28cがクリックされたときはステップ18-7でオーダー・処置一覧画面（図8）を表示する処理が行われる。ステップ18-4で処方内容一覧タブ28dがクリックされたときはステップ18-8で処方内容一覧画面（図9）を表示する処理が行われる。

【0016】図4は図3のステップ18-5の診療情報画面表示処理の詳細を示している。診療情報画面表示処理に入ると、ステップ19-1で診察画面（図6参照）が表示される。診察画面上には後述するように症状・所見ボタン40、オーダーボタン42、処方発行ボタン44、終了ボタン46及びその他以下の発明と直接的に関係しないため説明を省略するボタンが設けられている。これらのボタン40、42、44、46がクリックされたか否かのチェックがステップ19-2、19-3、19-4、19-5で行われている。

【0017】ステップ19-2で症状・所見ボタン40がクリックされたとの判断の場合はステップ19-6に進み、症状・所見処理が実行される。

【0018】ステップ19-3で処方発行ボタン44がクリックされたとの判断の場合はステップ19-7で処方発行処理が実行される。

【0019】ステップ19-4でオーダーボタン42がクリックされたとの判断の場合はステップ19-8でオーダー処理が実行される。

【0020】ステップ19-2からステップ19-4においていずれのボタンもクリックされていない場合にはステップ19-5で終了ボタン46がクリックされない限りは診察画面（図6）に留まる。ステップ19-5で終了ボタン46がクリックされたか判断したときは、図2のルーチンの実行に戻るため、メニュー画面（図5）が表示される。

【0021】図2において、ステップ14ではメニュー画面上でカーデックスボタンがクリックされたか否かがチェックされ、カーデックスボタンがクリックされたときはステップ20に進み、カーデックス処理が行われる。

【0022】ステップ16では設定ボタンがクリックされたか否かのチェックが行われ、受付ボタンのクリックがあったとの判断のときにはステップ22に進み、設定処理が実行される。設定処理においては、後述の診療画面での見出し選択をする際の分類、各分類での見出しのセットの設定、オーダー処理におけるグループ、分類、項目、オーダー内容などの各種の設定が行われる。

【0023】以上概略的に説明したように、この発明の電子医療処理システムでは画面上に各種のタブやボタンを設け、これらのタブやボタンをクリックするのみで処理画面の切り替えが行われ、医師の効率的な診療に寄与させることができる。

【0024】図5は図2のステップ10の実行の結果スクリーン上に表示されるメニュー画面を模式的に表しており、診察ボタン20、カーデックスボタン22、設定ボタン24などのボタンが並べて設けられている。以下の説明と直接関係しないため説明を省略するが画面上にはそれぞれの機能実現のためのボタンが破線に示すように多数設置されている。

【0025】メニュー画面（図5）上で診察ボタン20がクリックされると、図2～図4のフローチャートに沿

って各種の画面が表示され、画面に従って医師による診察が行われる。換言すれば、この発明では診察は全て画面上の各表示に従って行われ、従来の紙のカルテにとって代わるものであり、過去の診察データの参照、所見・症状の入力、オーダー・処置、処方などの医師の診療処置を効率的にかつ最小限のキーボードの使用によって実現するように工夫したものである。図6に示すように画面の上面には、右から左に、患者ID、患者名、年齢、性別、日付、時刻の表示欄が設けられている。表示欄26における患者IDはその患者を特定するため患者毎に付されるものであり（初診の際に受付によって付与される）、逆にいえば表示欄26にID（=40387）を入力すれば、特定の患者（=鈴木〇〇）の診察データを即座に画面上に表示することができるようになっている。

【0026】メインメニュー画面（図5）より診察ボタン20をマウスクリックすると表示される診察画面には複数のタブ28a、28b、28c、28dが設けられており、タブ28a、28b、28c、28dをマウスによってクリックすることにより診療情報、診療内容一覧、オーダー・処置一覧、処方内容一覧等を表示することができる。図6はタブ28aをクリックしたとき表示される診療情報画面、図7はタブ28bをクリックしたとき表示される診療内容一覧画面、図8はタブ28cをクリックしたとき表示されるオーダー・処置一覧画面、図9はタブ28dをクリックしたとき表示される処方内容一覧画面をそれぞれ示している。

【0027】図6においてはタブ28aがクリックされており、診療情報が表示される。診療情報表示画面は既往症の欄30に加え、過去に行われた診察、オーダー・処置、処方などの複数の医療処置における最新のデータを表示する欄32、34、36、38がその日付を表示する欄32A、34A、36A、38Aと共に設けられている。このように、診察、オーダー・処置、処方等の処置における最新の過去のデータをその得られた日付と共に1画面で表示することにより、ページをめくる操作を伴うことなく、患者の状況を的確に把握することができ、医師の迅速かつ正確な判断に寄与させることができる。

【0028】欄32は診察部位の図（絵）によって表示された最新の過去の診察内容を表示する欄であり、その日付の表示欄32Aを備えたものである。このような絵によって表される診察内容の表示は、紙のカルテにおいても通常使用されており、診療科目が耳鼻咽喉科であるとすれば、図15の欄84に示されるように両鼓膜及び鼻腔を描いたものが代表的である。

【0029】欄34は医師による診察内容を文章に表しており、症状（問診内容）や所見の欄により構成され、例えば、以下の例のような内容が表示される。

【0030】《症状（問診内容）》

昨日～ 右耳痛： +1
今朝～ 右耳漏： +1

3日前～ 右難聴： +2
2日前～ 右耳鳴： +2
今朝～ 左耳痛： +1
2日前～ 左耳漏： +2
5日前～ 右難聴： +1
3日前～ 右耳鳴： +1

《所見》

右鼓膜色： +1
右鼓膜位置： 0
右鼓膜湿疹： +2
右鼓膜湿気： +1
右鼓膜分泌： 0
右鼓膜穿孔： +2
右鼓膜肉芽： 0
右外耳道色： 0
右外耳道湿疹： 0
右外耳道位置： 0
左鼓膜色： +2
左鼓膜位置： 0
左鼓膜湿疹： +1
左鼓膜湿気： +2
左鼓膜分泌： +1
左鼓膜穿孔： +1
左鼓膜肉芽： +2
左外耳道色： 0
左外耳道湿疹： +1
左外耳道位置： 0、

上記の症状や所見は前回の診察時に医師によって入力されたものであるが、通常の紙のカルテでは症状や所見は全文が医師により手書きで書きこまれるようになっているが、後述のようにこの発明においては症状又は所見欄におけるコロンの左側の評価因子は「今朝～」といった時間的评价因子も含めて予めセットになったものが記憶されており、医師はその中から適合したセットをポップアップメニューより選択することでそのセットに属する評価因子が並べて画面上に即座に表示され、各評価因子毎にコロンの右側欄に評価を示す数値が入力される。そして、この数値はアナログ的な値の代わりに例えば-3から+3といった段階的な評価値を入力するようにされている。このようにアナログ的な評価値を入力する代わりに段階的に数値化された値を入力することによりキーボードの文字キーを頼らずとも数値キー（所謂テンキー）から簡単に入力することが可能となる。

【0031】上記欄34において全文が画面に収まらない場合はスクロールバー34Bによってスクロールさせることができる。

【0032】欄36は前回診察において医師により出された診察時のオーダー・処置内容を表示する欄であり、上記例のような症状・所見の場合は以下の例のような内容となる。

【0033】《治療及び処置内容》

- ◆ 標準純音聴力検査
- ◆ チンパノメトリー
- ◆ CTスキャン耳部（単純撮影）（環状断）
- ◆ 両耳処置（2剤Bad）

－以上－

欄38は欄38Aの日付の前の診察において医師により出された処方内容を表示する欄であり、上記の例では以下のような表示がされる。

【0034】《内服薬》

バクシダール錠200 mg 3錠

ランツジールコーワ錠30 mg 3錠

－以下余白－

以上述べたように、タブ28aをクリックしたとき表示される診療情報画面では診察、オーダー・処置、処方の各々について過去の最新の内容がそれぞれのされた日付と共に1画面にて表示されるため、過去の紙のカルテや電子カルテと異なってページをめくる操作が不要であり、迅速かつ的確に過去の診察状況を参照することができる。

【0035】次に、タブ28bをクリックしたとき出現する図7に示す診療内容一覧の表示画面について説明する。この画面は診療内容について図6の欄32、34に表示される以前の絵及び文章による診療内容を最大で6個カタログ的に表示するものである。左側の6個の欄は図6の欄32と同様に診療部位の絵による診療内容を表示（簡明のためGで表している）するものであり、それぞれ、診療内容が得られた日付表示欄及びそれをクリックすることによりそれぞれの欄への過去の診療内容を表示せしめるボタンを備えている。右側の6個の欄は図6の欄34と同様に文章（症状・所見）によって表示した診療内容（簡明のためTで表している）を示しており、それぞれ、診療内容が得られた日付表示欄及びその内容を表示せしめるボタンを備えている。

【0036】図7では左側（診療部位の絵）及び右側（症状・所見）について1つの欄のみデータが日付とともに表示されており、過去のデータは1つずつであったことを表している。

【0037】次に、タブ28cをクリックしたとき出現する図8に示すオーダー・処置内容一覧の表示画面について説明する。この画面はオーダー・処置について図6の欄36に表示される以前の6回の診療内容をカタログ的に表示するものである。各欄はそのオーダー・処置を行った日付表示欄及びそれをクリックすることによりそれぞれの欄への過去の診療内容を表示せしめるボタンを備えている。表示の方式は図6の欄36について説明したものに準じている。

【0038】図8では左上の1つの欄のみオーダー・処置内容（Oにて表す）データが日付とともに表示されており、実際の過去のデータは1つのみであったことを表し

ている。

【0039】次に、タブ28dをクリックしたとき出現する図9に示す処方内容一覧の表示画面について説明する。この画面は処方について図6の欄38に表示される以前の最大6回の処方内容をカタログ的に表示するものである。各欄はその処方を行った日付表示欄及びそれをクリックすることによりそれぞれの欄への過去の診療内容を表示せしめるボタンを備えている。処方内容の表示方式の例については図6の欄38について説明を参照。

【0040】図9では左上の1つの欄のみ処方内容（Sにて表す）データが日付とともに表示されており、過去の処方に関するデータは1つのみであったことを表している。

【0041】以上述べたように、タブ28b、28c、28dをクリックしたとき表示される診療内容一覧画面、オーダー・処置一覧画面、処方内容一覧画面では診察、オーダー・処置、処方の各々の内容について過去の一連（図示例では最大で6回分の診察のデータ）のデータが1画面にカタログ的に表示されるため、その患者についての診察、オーダー・処置の過去の経過を迅速かつ正確に把握することができる効果がある。

【0042】以上述べたように診療情報画面では診察、オーダー・処置及び処方について過去の最新のデータを1画面に表示し（図6）、また診察、オーダー・処置及び処方の各々について一連の過去のデータを1画面で最大6個づつカタログ的に表示し（図7、図8、図9）、タブ28a～28dにより順次切替表示することにより、その患者についての診療経過を迅速に参照することができる、迅速でかつ的確な診療に寄与させることができる。

【0043】図6～図9において既に説明したタブ28a～28d以外にここには詳細には説明しない複数のタブ29が破線のように設けられ、これらのタブをマウスをクリックすることにより体重、体温、血圧といった患者の全身データを1画面で表示させたり、過去のX線撮影の読影コメントをその日付と共にカタログ的に1画面で表示させたり、その日に撮影されたX線による撮影画像を表示させたり、その患者の過去の入院歴を一括して表示させたりすることができる。従って、タブをマウスクリックするだけで、その患者の診察に必要な全ての情報を参照することができ、迅速かつ適格な診察に寄与させることができる。

【0044】以下、患者の診察中、及び診察完了後の電子カルテへの新規なデータの入力操作について説明する。

【0045】図6において、タブ28aをクリックしたとき得られる診療情報画面における右上には症状・所見ボタン40、オーダーボタン42、処方発行ボタン44が設けられる。また、終了ボタン46も設けられる。

【0046】症状所見ボタン40がクリックされると、図10に示される症状・所見画面が現れる。この症状・

所見画面は複数のタブ50a, 50b, 50cを備えている。図10はタブ50aを、図14はタブ50bを、図15はタブ50cをクリックしたとき得られる画面をそれぞれ示している。

【0047】図10においてはタブ50aがクリックされており、症状画面が表示されている。症状画面は見出選択ボタン52と、診療科目表示欄54と、診療部位表示欄56と、症状記入欄58と、履歴欄60と、レコード追加ボタン62と、カルテ記入ボタン64とを備えている。

【0048】この発明の実施形態における電子式医療管理システムにおいては、医師による症状診断（問診）における診断因子（問診因子）を診療科目、診療部位によって予め分類しかつセット化しておき、診断時にこれから診断をする患者がどの診療科目のどの診療部位を診察するのかによって適切なものを選択するようにしている。即ち、診療科目、診療部位が決まれば医師が問診を行う場合の問診事項は通常の医療業務では患者間でそう変化するものではなくむしろ固定的といつてよい。そこで、診療科目の各々について必要な診察部位毎に予め問診事項をセットとして定めておき、診断時においてその患者の診療科目、診断部位にマッチするものを選択し、症状記入欄58に見出しとして表示することにより、診断を迅速に行いかつ診療漏れのないようにしたものである。問診事項（診療因子）がどのように選択されるかを以下具体的に説明する。

【0049】症状画面（図10）において、問診を開始する前は症状記入欄58は日付、時間をのぞいて、空欄になっている。この状態で見出選択ボタン52をクリックすると、図11に示す見出選択画面が表示される。見出選択画面は分類（診療科目）選択欄66とセット表示欄68とから構成される。図示の例では分類表示欄における各項目は耳鼻科、内科等の診療科目を主体に構成されている。そして、各項目毎に複数の問診因子の組み合わせたもの（以下セットと称する）が決められており、分類欄66の一つの項目をマウスによって指定するとその項目に属するセットが全てセット表示欄68に表示されるようになっている。例えば、図11では分類欄66において耳鼻科が選択された状態を示しており（矢印で示すマウスポインタは耳鼻科を指している）、そのため耳鼻科に属するセットである中耳Sx₁がセット欄68には表示されている。そして、そのセット中の中耳Sx₁をマウスによってクリックすることにより、図10に示すように、分類表示欄54には耳鼻咽喉科が表示され、セット表示欄には中耳Sx₁が表示され、症状記入欄の上側段である見出欄に中耳Sx₁のセットに含まれる問診因子が表示される。一方、履歴表示欄60には過去の診察時におけるそのセット中耳Sx₁の診断結果が表示される。セット中耳Sx₁に含まれる問診因子は右耳漏、右難聴、右耳鳴、左耳痛、左耳漏、右難聴、右耳鳴の7因子

であるが、図10ではそのうちの最初の4因子のみ表示し、残余の因子は図示を省略している。

【0050】次に、問診結果の入力方式について説明する。問診結果はその症状が起こった時期とその症状の程度とで評価されるのが通常である。そして、従来の電子カルテではキーボードを使用して文章として入力するのが普通であった。しかしながら、キーボードによる入力作業はキーボードの使用に習熟していない医師やキーボードの使用にアレルギーがある医師にとってはこの作業は抵抗があった。この発明では時間因子については予め記憶しておいたセットから選択し、症状の程度については数値的な評価値を数字キー（所謂テンキー）を利用して入力するようにしている。この入力方式について詳細に説明すると、症状記入欄58の上側段の各見出しの各因子の下側欄は症状の度合い及びそれが起こった時期を表示するために設けられる。そして、各因子の下側の入力欄における右側部分（破線の矩形で示している）が症状が起こった時期の入力欄であり、この欄をマウスでクリックするとポップアップメニューが現れる。このメニューにはいつからその症状が起こったかや頻度はどうか等の発症に関する時間的因子がリストされている。図12はこのポップアップメニューを表している。同メニューにはリストを表示する欄65が具備され、同欄65には少し前～、1時間前～、2時間前～、3時間前～、半日前～、今朝～、昨夜～、2日前～、3日前～、4日前～、5日前～、6日前～、まで見えているが、スクロールバー65Aをマウスでクリックすることによって、1W前～、10日前～、2W前～、3W前～、1M前～、2M前～、3M前～、4M前～、5M前～、半年前～、10M前～、数年前～、冬、春から夏、夏から秋、秋から冬、冬から春、春と秋、突然に、徐々に、急に、持続的に、絶えず、常に、一時的、しばしば、時々、稀に、間欠的に、反復して、周期的に、季節的に、交代的に、突発的になどの症状がいつから起こったかまたは頻度はどうかについて通常想定しうるバリエーションが漏らさず表示され、その中からマッチしたものをマウスクリックにより選定し、OKボタン65Bをクリックすることにより入力することができる。図13において症状記入欄58の下側の破線四角はこのようにして選択した症状発生時期を入力済の状態を示している。

【0051】一方、その症状の程度は、症状記入欄58の上側段の各見出しの各因子の下側の入力欄における左側がその入力欄であり、それぞれの因子について数値化された値を入力するようになっている。図10は未入力の状態を示しており、欄58の数値入力部の値は全て0となっている。数値化の方式としては図の例では-3（症状無し）から+3（症状最も重い）まで6段階（適当に中間値を入れてもよい）評価としている。そして、

カーソルを各因子の下側の入力欄における左側に合わせ、キーボードの数値キー（テンキー）よりマッチした数値を押すことにより症状の程度の入力を行うことができる。図13において、このようにして各欄の数値入力部に症状の度合いが数値によって入力された状態を表している。

【0052】このようにして必要な欄に全て入力した後、レコード追加ボタン62をマウスによってクリックするとこれらのデータの入力操作が完了し、図に示すように履歴欄60に最新の診察結果として表示される。また、カルテ記入ボタン64をマウスでクリックすることによってカルテの症状欄（図15の欄86）に記入される。

【0053】次に、所見タブ50bをマウスによってクリックすることによって表示される図14の所見画面について説明する。この所見画面の構成は症状画面と基本的には同様であり、医師による入力作業も基本的には同様である。即ち、見出選択ボタン69をクリックすると、図11と同様に見出選択画面が表示される。そして、図11において問診結果の入力について説明したと同様に診療科目欄（図11の欄66に相当）の耳鼻咽喉科をクリックすることにより、耳鼻咽喉科における所見用のセット画面（図11欄68と同様）が表示され、その中から適切なセットが選択される。図14はその中の一つのセット Obj右耳（＝右耳の所見因子セット）が選択された状態を例として示しており、分類表示欄70には耳鼻咽喉科が表示され、セット表示欄72にはObj右耳が表示され、所見記入欄74の上側段である見出欄にObj右耳のセットに含まれる所見因子が表示される。そして、履歴表示欄76には過去の診察時におけるそのセット Obj右耳の診断結果が表示される。セット Obj右耳に含まれる所見因子は、この例では、右鼓膜色、右鼓膜位置、右鼓膜湿疹、右鼓膜湿気、右鼓膜分泌、右鼓膜穿孔、右鼓膜肉芽、右外耳道色、右外耳道湿疹、右外耳道位置の10因子であるが、図ではそのうちの最初の4因子のみ表示し、残余の因子は図示を省略している。

【0054】次に、所見結果の入力が問診における数値入力と同様に行われる。即ち、各因子の程度（所見）について－3から＋3までの多段階に数値化した評価結果がテンキーを使用して入力される。そして、問診結果と同様に必要な欄に全て入力した後、レコード追加ボタン78をマウスによってクリックするとこれらのデータの入力操作が完了し、履歴欄76に最新の診察結果として表示される。また、カルテ記入ボタン80をマウスでクリックすることによってカルテの所見欄（図15の欄86）に記入される。

【0055】次に、タブ50cをクリックしたとき表示される診察コメント画面について説明する。図15に示すように、この画面は履歴欄82と、図示欄84と、症

状・所見欄86と、画像入力ボタン88と、追加コメントボタン90とから構成される。履歴欄82には過去の診察履歴が記入され、図示欄84は今回の診察における診察内容を絵によって表している。それに先だて、描画ソフトを利用して診断部位（この例では左右鼓膜及び左右鼻腔）に所見を記入することができる。このようにして、作成した絵は画像入力ボタン88をマウスでクリックすることにより図示欄84に取り込まれる。

【0056】症状・所見欄86には図10及び図13の欄58及び図14の欄74に関して説明したように入力された症状・所見が記入される。追加コメントボタン90をクリックすることにより、症状・所見欄86の下側の余白にカーソルが出現し、所望のコメントを入力することができる。

【0057】次に症状・所見の入力後の処方発行及びオーダーについて説明する。タブ28aをマウスクリックすることにより診療情報画面（図6）に戻る。処方発行ボタン44をクリックすることにより、処方発行画面（図16）が現れる。処方発行画面は処方発行履歴欄100と、処方内容欄102と、約束処方ボタン104と、薬品追加ボタン106と、前回D○ボタン108と、処方欄110とを有している。

【0058】処方発行履歴欄100には、その患者についてこれまでの処方発行日付、時刻、診療科目、医師名などが記載されている。処方発行履歴欄100の履歴行の一つをマウスでクリックするとそのときの処方発行内容が処方内容欄102に表示される。図示の状態は1999.05.29の行をマウス（矢印）でクリックすることで選択し、そのときの処方内容を欄102に表示している。前回D○ボタン108は前回の診察時と同一の処方をするものであり、従って、前回D○ボタン108をマウスクリックした場合は、処方内容欄102に表示されている前回と同一の内容が処方欄110に記入されることになる。処方欄110は薬品名称、使用単位数、1日量、服用時期、使用方法、日当たりの服用回数等（その他、服用は食前か食後かなどの表示も図示しないが含まれよう）の欄が設けられている。

【0059】約束処方選択ボタン104は新患の場合等新たに処方を発行する場合に使用される。即ち、ある所見に対しては処方予め決められた処方のセット（薬の組み合わせ）を採用することが多く、そのため所見毎に予め決められた処方がセットとして格納されており、これを選択するようにしている。約束処方ボタン104がクリックされると、図示しない分類選択画面が現れ、分類を選択するとその中の処方のセットがセット欄に現れ、その中から適当なセットをクリックすることにより処方欄110にセットに含まれる薬の処方内容が表示されるようになっている。

【0060】薬品追加ボタン106をクリックすると追加薬品のリスト（図示しない）が現れ、その中から追

加すべき薬品を選択すると、処方欄110に追記されるようになっている。

【0061】次に、オーダーについて説明すると、図6の診療画面に戻ってオーダーボタン42をクリックすると、図17のオーダー画面が表示される。オーダー画面はタブ112a、112bを備え、タブ112aをクリックすることにより実施項目選択画面が得られる。実施項目選択画面はグループメニュー114と、分類メニュー116と、項目メニュー118と、オーダー内容欄120とを備えている。図示の場合はセッタブ113aがクリックされ、オーダーをセットとして出す場合を説明するものである。即ち、医師の診療後の処置指令としてのオーダーは複数のオーダーを組み合わせられることが多く、その組み合わせの仕方は固定的であることが普通である。そこで、オーダーを大、中、小と3段階で分けたものを予めセットしておき、大→中→小に順次段階をたどってゆくことで、迅速なオーダー選択が可能となるようにしている。以下、具体的に説明すると、グループメニュー114中には、オーダーのグループが表示され、処置オーダーの行にマウスポインタ（矢印）を置きマウスクリックすることにより選択すると、処置オーダーグループに属する分類がメニュー116に表示される。分類メニュー116より耳処置にマウスポインタ（矢印）を置き、クリックして選択すると、その分類に属するオーダーがメニュー118に表示される。そして、分類メニュー中の一つのオーダー（セット）である両耳処置にマウスポインタ（矢印）を置きクリック選択するとそのオーダーセットに属するオーダーの組み合わせがオーダー内容欄120に表示される。

【0062】尚、項目タブ113bをクリックすると項目別のオーダー入力画面が得られ、この場合は医師は項目別のオーダーの入力を行うことになる。

【0063】このようにして、オーダー内容が入力された後、実施項目期間設定タブ112bがクリックされると、図18の実施項目設定期間画面が表示される。実施項目設定期間画面は選択されたセットにおける各オーダーについて名称、順序、期間などより成る指示欄122を備えている。名称欄には選択されたセットにおける各オーダーが表示され、順序欄にはこれらのオーダーの実施順序が入力され、期間欄には各オーダーについて実施期間（時期）が入力される。

【0064】詳細には説明しないが、詳細設定タブを選択することにより詳細設定画面が表示され、各オーダーについて使用単位、使用量、時間流量（点滴などの場合）の細目が設定される。

【0065】図19はカードックス画面であり、メインメニュー画面（図5）のカードックスボタン22をクリックすると現在のオーダーがある患者の一覧（図示せず）が表示され、この一覧の中から患者を選定することにより表示される。又は診察画面（図6）に設けられる図示

しないカードックスボタンをクリックすることでカードックス画面を表示することができる。そして、患者IDを入力するとその患者についてのカードックス画面が表示される。カードックス画面はオーダー履歴欄130、オーダーメニュー欄132、オーダー内容欄134を具備している。オーダー履歴欄には当日（この例では1999.06.01）及び全て（これまでのその患者の全てのオーダー）の二つの選択枝が表示され、当日がマウス選択（矢印）されているとし、オーダーメニュー欄132には当日におけるオーダーの選択欄が表示され、当日における全オーダーを表示するべくオーダーメニュー欄132の全てをマウスクリック（矢印）しているとする。オーダー内容欄134には当日である1999.06.01におけるオーダーが全て表示される。このオーダー内容は、当然であるが、オーダー発行画面（図17）におけるオーダー内容欄120のオーダー内容と一致している。看護婦は指示順序に従ってオーダーを実施し、実施済の場合にはチェック欄にチェックし（□に×印を付し）、オーダーを中止した場合は中止欄をチェックする。図ではオーダーは未実施であるためチェック欄は全て未チェックである。

【0066】図20は図6～図9に示される診察画面の別実施例であり、図7の診察内容一覧タブ28が医師(Dr)用の診察内容一覧タブ28b-1と看護婦(Nr)用の診察内容一覧タブ28b-2とに分かれている。タブ28b-1、28b-2をマウスクリックしたときの表示内容は基本的には図7に示されるものと同様であり、一連の過去の診察内容（絵によるものGと文字によるものT）とがその日付と共に表示されるものである。

【0067】図21は図6～図9に示される診察画面の更に別実施例であり、追加的なタブとして検査画像タブ140を備えた点が特徴である。検査画像タブ140をマウスとクリックしたとき得られる画面はX線画像を表示するための複数の欄142（図では6個の欄）と、各欄142の上部に設けられるX線画像名表示欄144と、日付入力欄146と、次ページボタン148aと、前ページボタン148bとを具備する。日付入力欄146にその日付を入力するとその日に撮影されたX線検査画像が欄144内の画像名と共に表示される。図示の例では左上の二つの欄に画像XP1、XP2が画像名と共に表示され、この例ではこの日の画像は2枚のみであることを示している。図示の例では1画面に6枚表示することができ、それ以上の画像がある場合は次ページボタン148aをマウスクリックすると次のページに表示され、前ページボタン148bをマウスクリックすると元のページに戻ることができる。この例ではX線画像のように同一患者について同日に複数枚のデータを採取する場合において、1画面においてこれら複数のデータを同時に表示することにより効率的な診断を行うことができる。また、ボタン149a、149bは日付毎の改ページボタンである。

【0068】図22～図24は図13で説明した症状・

所見画面の別実施例であり、症状入力及び所見入力のための専用画面を設けた点が特徴である。即ち、図13に示される症状タブ50a、所見タブ50b、診察コメントタブ50cに加えて症状入力タブ50d、所見入力タブ50bが設けられている。図22は症状入力タブ50dをクリックしたとき現れる症状入力画面を示し、複数（図の例では5つ）の症状因子セット入力欄150が設けられる。各欄150の上部にはセット表示欄152が対になって設けられる。見出選択ボタン154をマウスクリックすると欄152には分類が表示され、それぞれの欄150にはセットに含まれる症状因子が図10又は図14に関連して説明したように順次表示される。そして、各欄150においてそれぞれの因子毎（右耳痛、右耳漏、右難聴、右耳鳴等）に症状が起こった時期が右側破線四角にポップアップメニュー（図12と同様）を利用して入力される。そして、左側に各因子についての数値評価がテンキーなどを使用して図10又は図14と同様に入力される。

【0069】所見入力タブ50eをマウスクリックしたとき現れる画面構成は図22と同様であり多数の所見因子セット入力欄が具備される。各欄の構成は図14における欄74と同様である。入力方式は図22について説明したものと同様ではない。

【0070】図23は所見入力欄の構成であり図14と基本的に同様である。ただ、グラフボタン164、選択D○ボタン166、選択ボタン168が設けられる。選択D○ボタン166のマウスクリックにより前回の所見入力結果が欄160に入力され、選択ボタン168のマウスクリックにより順次選択が行われ同時に欄170に年月日、欄172の時刻が表示される。

【0071】ボタン164のマウスクリックによって図24のグラフ画面が出現する。この画面の下部に所見因子表示欄174があり、欄174をマウスクリックすると図23で選択されている所見因子セット欄160に含まれる所見因子がポップアップメニューに現れ、その中から一つの因子である 右鼓膜湿気 を選択した状態が図24には見えている。そして、グラフ表示欄には 右鼓膜湿気 について日付に対するデータ（数値化データ）がグラフ化して表示される。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1はこの発明のソフトウェアが搭載されるコンピュータシステムのネットワークの概念構成図である。

【図2】図2はメインメニュー表示方式を示すフローチャートである。

【図3】図3は診察処理の作用を説明するフローチャートである。

【図4】図4は診療情報処理がどのように行われるかを説明するフローチャートである。

【図5】図5はメインメニュー画面の概略図である。

【図6】図6は診察情報画面の概略図である。

【図7】図7は診察内容一覧画面の概略図である。

【図8】図8はオーダー・処置一覧画面の概略図である。

【図9】図9は処方内容一覧画面の概略図である。

【図10】図10は症状入力画面の概略図で、症状が入力する前の状態を示す。

【図11】図11はセット選択画面の概略図である。

【図12】図12は症状期間の選択画面の概略図である。

【図13】図13は症状入力画面の概略図であるが、症状が入力された後の状態を示す。

【図14】図14は所見入力画面の概略図である。

【図15】図15は診察コメント画面の概略図である。

【図16】図16は処方発行画面の概略図である。

【図17】図17はオーダー画面における実施項目選択画面の概略図である。

【図18】図18はオーダー画面における実施項目期間設定画面の概略図である。

【図19】図19はカードックス画面の概略図である。

【図20】図20は別実施例における診察画面の構成を示す図である。

【図21】図21は別実施例における診察画面の構成を示す図である。

【図22】図22は別実施例における症状・所見画面を示す図であり、症状入力タブをクリックしたときの画面表示を示す。

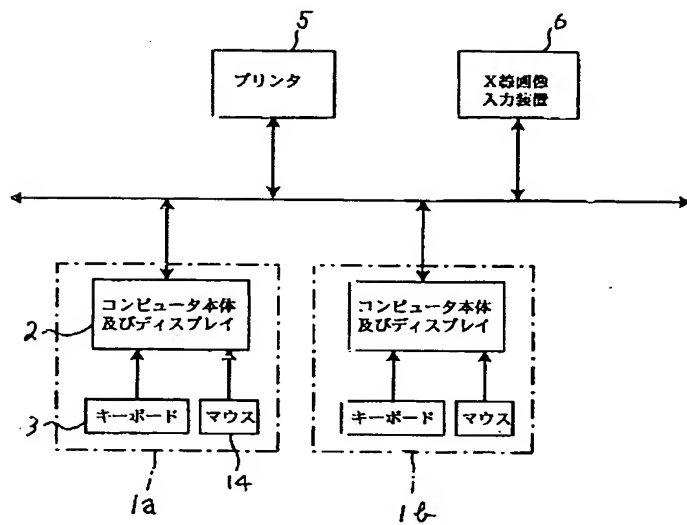
【図23】図23は図22と同様であるが所見タブをクリックしたときの画面表示を示す。

【図24】図24は図23におけるグラフボタンをクリックしたときの画面表示を示す図である。

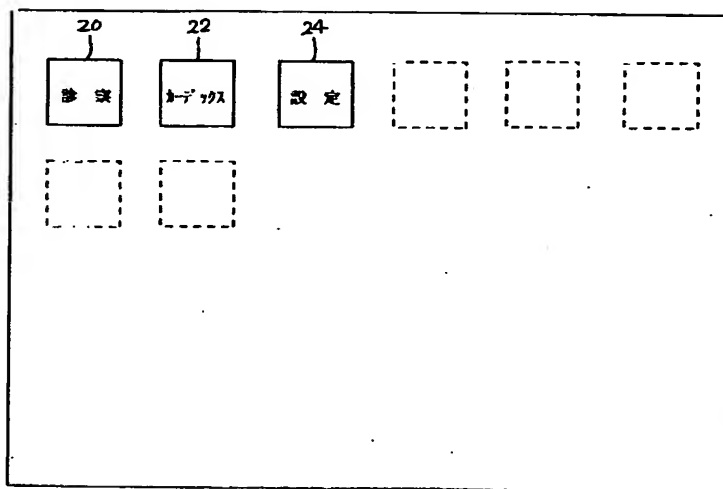
【符号の説明】

- 20…診察ボタン
- 22…カードックスボタン
- 24…設定ボタン
- 28a, 28b, 28c, 28d…タブ
- 32, 34, 36, 38…最新の過去のデータ表示欄
- 40…症状・所見ボタン
- 42…オーダーボタン
- 44…処方発行ボタン
- 50a, 50b, 50c…タブ
- 52…見出選択ボタン
- 56…診察部位表示欄
- 58…症状記入欄

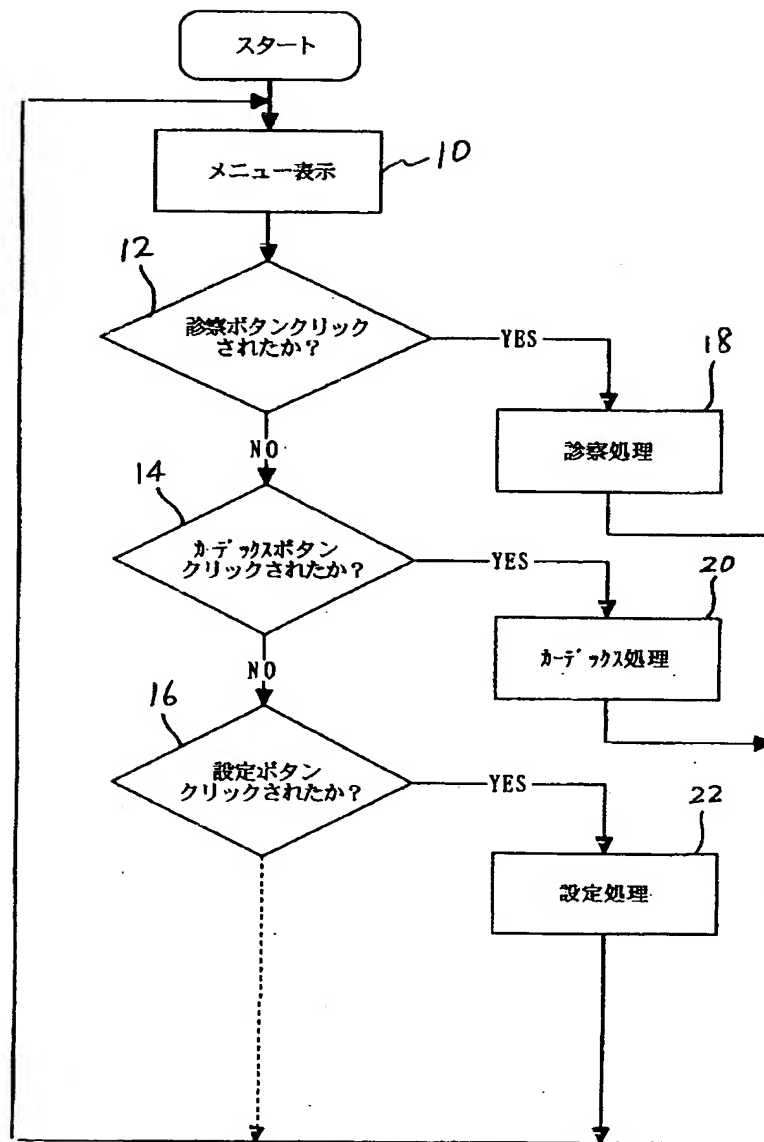
【図1】



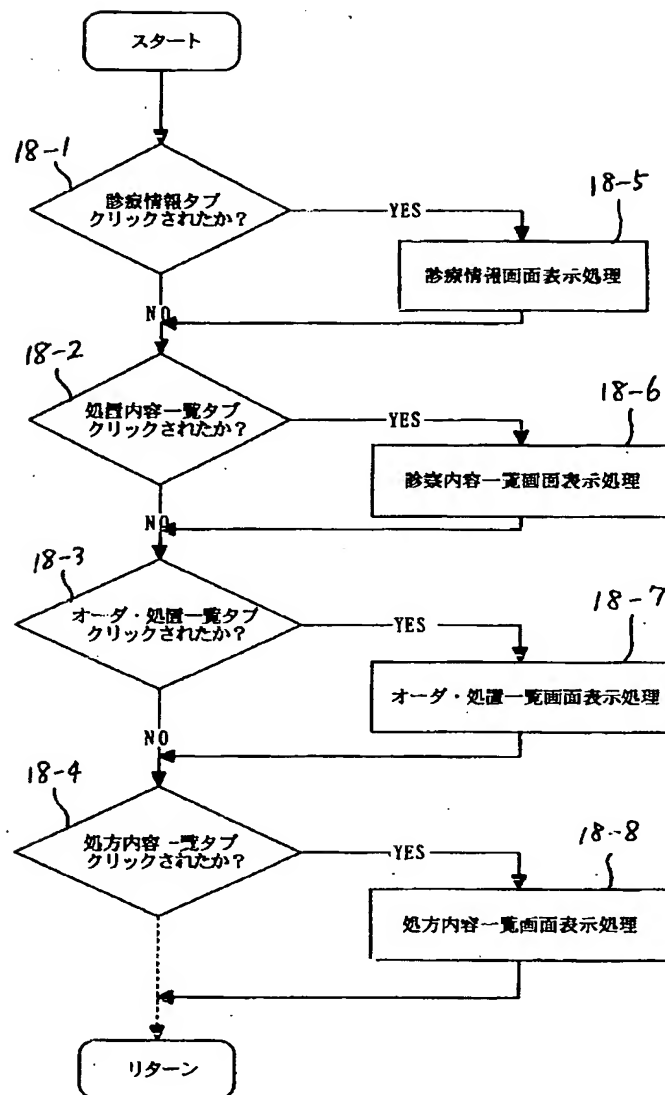
【図5】



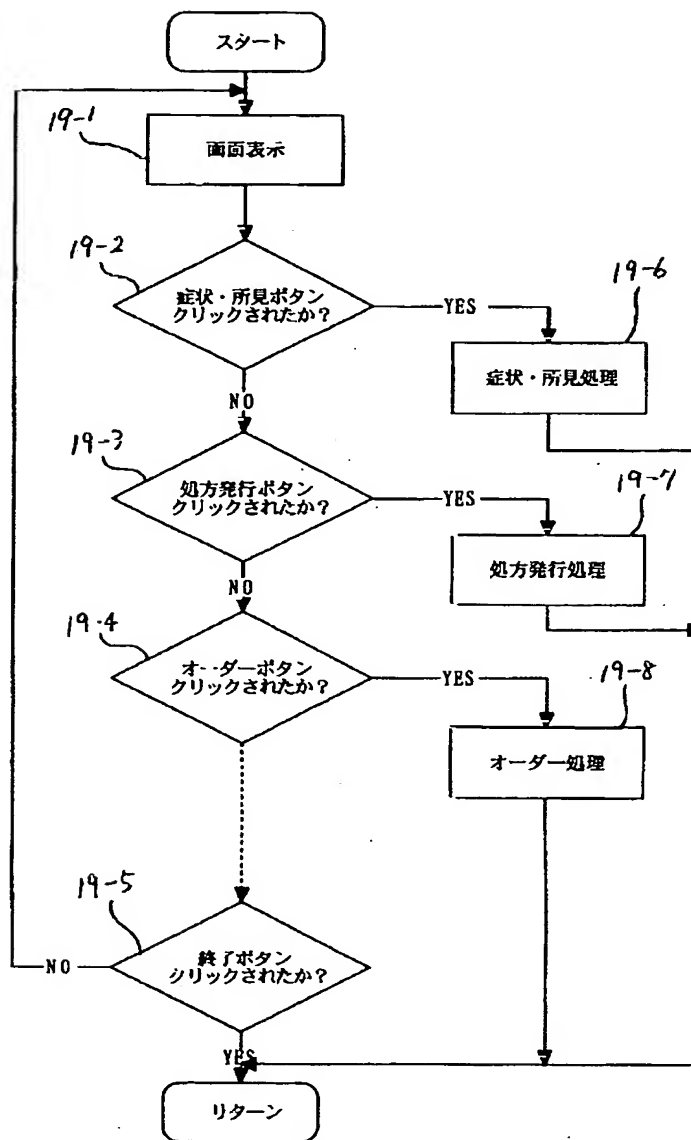
【図2】



【図3】



【図4】



【図6】

40387 鈴木 〇〇 38 歳 6 ヶ月 性別 男 1999.06.01 14:35

診療情報 28a 28b 28c 28d 28e

症状・所見 40 処方発行 44 終了 46

オーダー 42

既往症・現病歴・手術歴・その他 期間

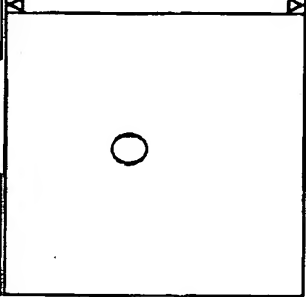
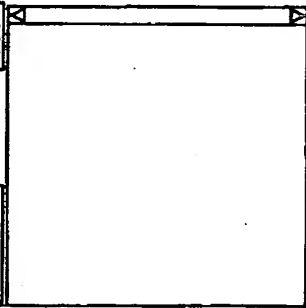
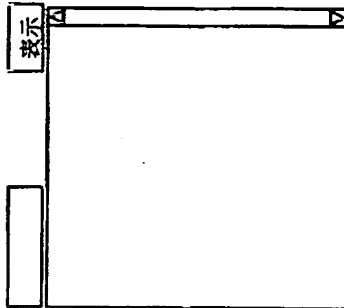
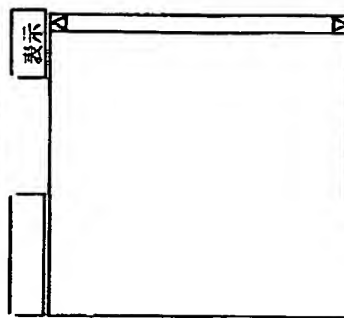
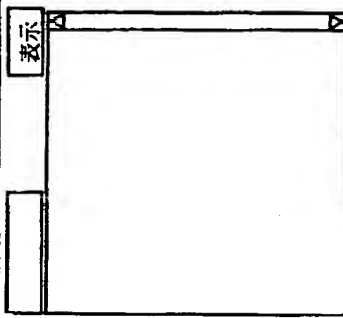
30 1999.05.29 診療内容 (図示) 32A 32 34A 34 34B 1999.05.29 診療内容

1999.05.29 オーダー・処置内容 36A 36 38 1999.05.29 処方内容 38A 38

【図7】

40387	鈴木 〇〇	28歳	6	ヶ月	性別	男	1999.06.01	14:35
診療情報		診療内容一覧		オータ・処置一覧		処方内容一覧		
[1999.04.01]	表示		表示	[1999.04.01]	表示		表示	
G		T						
[]	表示	[]	表示	[]	表示	[]	表示	
[]	表示	[]	表示	[]	表示	[]	表示	
[]	表示	[]	表示	[]	表示	[]	表示	

【図8】

40387	鈴木 〇〇	28	38 歳	6 ヶ月	性別	男	1999.06.01	14:35
診療情報		診療内容一覧		オータ・処置一覧		処方内容一覧		
1999.04.01		表示		表示		表示		表示
								

【図9】

40387	鈴木 〇〇	38 歳	6 ヶ月	性別 男	1999.06.01	14:35
診療情報	診療内容一覧	オーダー・処置一覧	処方内容一覧			
1999.04.01	表示		表示		表示	
S			29			
表示		表示		表示		

【図10】

40387	鈴木 ○○	38 歳	6 ヶ月	性別 男
症状	所見	診察コメント		
502	502	500	58	54
見出選択	52	52	58	54
中耳Sx	耳鼻咽喉科	右耳痛	右耳漏	右耳鳴
1999. 06. 01	14:51	0	0	0
1999. 05. 29	10:11	1	5	1
昨日	今朝	3日前	2日前	
レコード追加	カルテ記入			

【図11】

分類	セット
101:一般 (SENT)	041:顔面・頸部Sx
111:耳鼻科 (SENT) ✓	051:耳介Sx
121:胸部 (SENT)	061:外耳道Sx
241:呼吸器	071:中耳Sx
251:消化器	091:副鼻口Sx
271:神経	101:鼻出血Sx
281:眼科	111:口唇・口内炎Sx
291:泌尿器科	121:口唇・口腔腫瘍Sx
301:一般内科	
311:耳鼻科・一般・神経	
331:耳鼻科・胸部 (SENT)	

bb

68

【図12】

症状の期間の項目

65

少し前～
1時間前～
2時間前～
3時間前～
半日前～
今朝～
昨夜～
2日前～
3日前～
5日前～
6日前～
1W前～
10日前～

65A

キャンセル

OK 65B

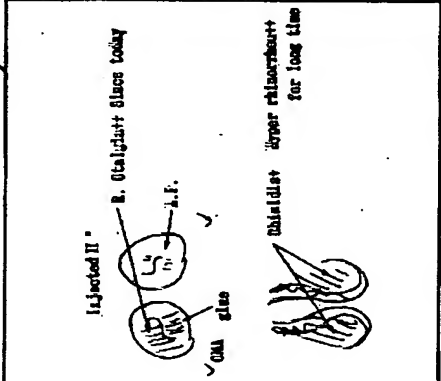
【図13】

40387	鈴木 〇〇	38 歳	6 ヶ月	性別	男
症状	所見	診療コメント			
50a	50b	50c	50d	50e	50f
見出選択	52	60	58	54	56
				耳鼻咽喉科	中耳Sx
日付	時間	右耳痛	右耳漏	右聴認	右耳鳴
1999. 06. 01	14:51	1	1	0	0
		昨日~	今朝~	3日前~	2日前
1999. 06. 01	14:51	1	5	1	0
		昨日~	今朝~	3日前~	2日前
1999. 05. 29	10:15	1	5	1	0
		昨日~	今朝~	3日前~	2日前
レコード追加		カルテ記入			

【図14】

40387	鈴木 ○○	38 歳	6 ヶ月	性別 男	
症状	所見	診察コメント			
見出選択		508	76	74	
		耳鼻咽喉科	70	Obj. 右耳	
日付	時間	右鼓膜色	右鼓膜位置	右鼓膜湿度	右鼓膜分泌
1999.06.01	15:01	0	0	0	0
1999.05.29	10:22	1	0	2	1
レコード追加		78	カルテ記入		
		78			

【図15】

40387	鈴木 〇〇	38 歳	6 ヶ月	性別 男	1999.06.01	15:03
症状	所見	診察コメント	50c			
履歴		82	図示			
1999.05.29 14:51:02 1999.04.01 10:55:17						
86		症状・所見				
《症状 (問診内容)》		+ 1 昨日～ 右耳痛: + 1 今朝～ 右耳漏: + 2 3日前～ 右難聴: + 2 2日前～ 右耳鳴: + 1 今朝～ 左耳痛: + 2 2日前～ 左耳漏: + 1 5日前～ 右難聴: + 1 3日前～ 右耳鳴: + 1				
《所見》		+ 1 右鼓膜色: + 1 右鼓膜位置: 0 右鼓膜湿度: + 2 右鼓膜湿度: + 1 右鼓膜分泌: 0 右鼓膜穿孔: + 2 左鼓膜未穿: 0 右外耳道色: 0 右外耳道湿度: 0 右外耳道位置: 0 左鼓膜色: + 2				
88		画像入力				
90		追加コメント				

40387	鈴木 ○○	38歳	6ヶ月	性別 男	1999.06.01	15:05
-------	-------	-----	-----	------	------------	-------

日付	時刻	診療科目	医師名	処方内容
1999.05.29	14:52	耳鼻咽喉科	斎藤□□	《内服薬》 バクシダール錠200mg 3錠 ランソジールコーワ錠30mg 3錠 分3食後4日分
1999.04.01	10:55	内科	山田※※※	

約東処方選択

104

薬品追加

106

前回DO

108

SEQ	薬品名称	単位	日付	1日量	1回量	回数	昼	晩	使用法	日/回
0	バクシダール錠200mg	錠			3				分3	4
1	ランソジールコーワ錠30mg	錠			3				分3	4

【図17】

40387	鈴木 ○○	38	歳	6	ヶ月	性別	男	1999.06.01	15:07
-------	-------	----	---	---	----	----	---	------------	-------

実施項目選択 / 実施項目期間設定

112a セット / 項目

113a ガループメニュー

114 分類メニュー

118 項目

120 オーダー内容

番号	オーダーセット (項目・名称)
2001	標準純音聴力検査
5002	チンパノメトリー
2009	CTスキャン耳部
1036	両耳処置 (2剤Pad)

項目
全オーダー
検査オーダー
処置オーダー
注射オーダー
特定オーダー

項目
右耳処置 (1剤Gauze)
左耳処置 (1剤Gauze)
両耳処置 (1剤Gauze)
右耳処置 (2剤Gauze)
左耳処置 (2剤Gauze)
両耳処置 (2剤Gauze)
Z-loss
Simple Z-loss
右外耳道Oint
左外耳道Oint
面外耳道Oint

項目
処置
耳処置
咽喉・気管肺処置
外科処置
内科処置
栄養

【図18】

40387	鈴木 〇〇	38 歳	6 ヶ月	性別	男	1999.06.01	15:07
実施項目選択							
実施項目期間設定							
112a 112b 112c							
名称 順序 期間							
磁気音聴力検査							
サンパノメトリー							
スーC Tスキャン耳部							
両耳処置 (2和Bad)							
1 1999.06.08 12:43 ~							
2 1999.06.08 12:43 ~							
3 1999.06.08 12:43 ~							
4 1999.06.08 12:43 ~							
DO							

【図19】

40387	鈴木 ○○	38 歳	6 ヶ月	性別 男	1999.06.01	15:08
オーディオ履歴 / 130						
オーディオメモ						
1999.06.01						
全て						
全て						
個別						
134						
順序	名称	単位	使用量	時間	流量	中止
1	標準聴音能力検査		0	1999.06.08 12:43		中止
2	チンパンジー		0	1999.06.08 12:43		中止
3	CTスキャン耳部		0	1999.06.08 12:43		中止
4	Bil. -耳Bad (Deca & Farl.)		5	1999.06.08 12:43		中止

【図20】

40387	鈴木 ○○ 28歳-1	38 歳	6 ヶ月	性別 男	1999.06.01	14:35
診療情報		処方内容一覧				
診療内容一覧 (01)		診療内容一覧 (01)		データ・処置一覧		
1999.04.01	表示		表示	1999.04.01	表示	
G		T				
	表示		表示		表示	
	表示		表示		表示	
	表示		表示		表示	

【図21】

40387	鈴木 ○○	38 歳	6 ヶ月	性別 男	140	1999.06.01	14:35
診療情報		診療内容一覧		データ・処置一覧		処方内容一覧	
検査情報		検査内容一覧		検査結果		検査画像	
-01-nc0		+144		142		-02-nc0	
XP1		XP2		XP3		XP4	
148b		148a		149a		149b	
99.05.29		146		149a		149b	

【図22】

40387		鈴木 ○○		38	歳	6	ヶ月	性別	男	耳鼻咽喉科	
症状入力		所見入力		症状		所見		診察コメント			
見出選択		152		50a		50b		50c		150	
中耳Sx		削除									
日付	時間	右耳痛	右耳漏	右難聴	右耳鳴						
1999.06.01	14:51	0	0	0	0						
		削除									
日付	時間										
1999.06.01	14:51	0	0	0	0						
		削除									
日付	時間										
1999.06.01	14:51	0	0	0	0						
		削除									
日付	時間										
1999.06.01	14:51	0	0	0	0						
		削除									
日付	時間										
1999.06.01	14:51	0	0	0	0						

【図23】

40387	鈴木 ○○	38 歳	6 ヶ月	性別 男	耳鼻咽喉科
症状入力	所見入力	症状	所見	診察コメント	
見出選択	選択100	選択100	選択100	選択100	選択100
1999.06.01	15:01	0	0	0	0
1999.05.29	10:22	1	0	2	1
レコード追加					
グラフ					

【図24】

